

臨地実習 講義・実習習得表（高齢者領域）

はじめに

歯科衛生士教育は、専門学校、3年制短期大学、4年制大学と様々であるがいずれの教育機関においても臨地実習は重要であり、その意義や本質は、変わらないと考えられる。

日本歯科衛生士会・教育養成委員会では、かねてより臨地（臨床）実習について検討を重ね、平成19年3月に「臨地・臨床実習指導マニュアルー歯科衛生士学生の指導のためにー」、平成22年12月に「臨地実習 指導事例集」を作成した。2冊とも臨地実習の充実と向上を目的とし作成したが、臨地実習先と養成校との連携が充分とはいえないという現状もある。

臨地実習は、直接、患者や相談者と接する貴重な時間であり、学生が知識を活用しながら、主体的に行動し、判断しながら応用力や問題解決能力を高め、自己成長を育む場である。しかし、臨地実習に関する教本は少なく、基準となるものがないのが現状である。

そこで本委員会では、「臨地実習 指導事例集」の12施設の中でも、「高齢者領域」は今後一層の充実が求められていることから、「高齢者領域」での実習が円滑に運ぶように、「臨地実習 講義・実習習得表（高齢者領域）」を作成することとした。作成にあたり、高齢者施設実習で学生が実習することができる項目である「体温、血圧、脈拍の測定」、「車椅子の移送」、「食事介助」、「口腔清掃」の4項目を選択し、学内における学習内容と実習先での習得内容を表とした。また、実習現場の指導者や管理者が学生指導を行う際の具体的な指導例として実習手順と留意点についてまとめた。さらに高齢者領域で使用される用語と解説についても記載した。

本書は、臨地実習に関わる教員の参考書や、臨地実習指導者との実習内容の検討資料として、また、実習現場の指導者や管理者が学生指導を行う際の具体的な指導例として、さらに実習生の自己成長のためのハンドブックとしても効果的に活用できるものであると考えている。本書が、養成校と臨地実習の現場との連携を深め、実習内容の向上に繋げていただくことを望んでいる。

最後に本書の作成にあたり、ご助言・ご指導いただいた関係各位の先生方に、厚く御礼申し上げます。

平成25年1月

公益社団法人 日本歯科衛生士会 教育養成委員会

目 次

講義・実習習得表，指導事例

体温・脈拍・血圧測定に関する講義・実習項目	1
体温・脈拍・血圧測定 指導事例	2
車椅子に関する講義・実習項目	3
車椅子による移送 指導事例	4
食事介助に関する講義・実習項目	6
食事介助の実施 指導事例	7
口腔清掃に関する講義・実習項目	8
口腔清掃の実施 指導事例	9

領域別 用語・略語

在宅	10
高齢者	12
疾患名	14
略語（カルテ・記録など）	15

体温、脈拍、血圧測定に関する講義・実習項目

到達目標	学内		臨地実習	
	講義	基礎実習	実習項目	到達の目安
①バイタルサインの正常値を述べるができる。				
*体温測定				
②体温の測定部位を述べるができる。				
③測定部位による体温の違いについて述べるができる。				
④横臥位、麻痺がある場合の測定部位を述べるができる。				
⑤腋窩での体温測定を実施することができる。				
*脈拍測定				
⑥脈拍を測定することのできる動脈を述べるができる。				
⑦脈拍を測定する指を述べるができる。				
⑧対象者に対しての注意点を述べるができる。				
⑨橈骨動脈での脈拍の測定を実施することができる。				
*血圧測定				
⑩血圧を左右する因子について述べるができる。				
⑪血圧計の各部名称を述べるができる。				
⑫血圧計使用前の点検を実施することができる。				
⑬対象者の状態を観察することができる。				
⑭対象者に対しての注意点を述べるができる。				
⑮マンシェットを正しく巻くことができる。				
⑯血圧測定を実施することができる。				

【到達の目安】 I ひとりでできる II 指導の下でできる

【自己評価】

【実習担当者からの評価】

体温、脈拍、血圧の測定

【到達目標】 安全・安心に配慮しながら、体温、脈拍、血圧の測定を行う。

【使用物品】 血圧計、体温計、秒針つき時計

手 順	手 順	留 意 点
1. 準備	①体温計、血圧計を準備する。 マンシエットの確認。 必要に応じて腕枕など準備	1 ・必要に応じて実習生の到達度を確認する。
2. 実施	①対象者に挨拶し、体温、脈拍、血圧測定の説明をする。 ②対象者の観察 *体温測定 ③対象者の腋の下を乾いたタオルで拭く。 ④腕をあげてもらい、体温計を前下方からあて、先端部分が腋窩のくぼんだ部分に接するようにする。 ⑤腕を下ろして体温計を密着させ、静かに姿勢を保つ。 ⑥測定時間経過後、体温計の確認を行う。 *脈拍測定 ⑦対象者に楽な姿勢を保つように指示をする。 ⑧橈骨動脈を示指、中指、薬指で軽い力で押さえる。 ⑨1分間測定する。 *血圧測定 ⑩血圧計のスイッチをONにする。 ⑪対象者に楽な姿勢を保つように指示をする。 ⑫腕を心臓と同じ高さにする。 ⑬マンシエットを上腕に巻く。 ⑭血圧測定を実施する。 ⑮対象者に声をかけ測定結果を告げる。 ⑯記録用紙に測定値を記録する。	2 ・見守りながら、不十分な点をサポートする。 ・対象者が横臥位の場合は上側の腋窩で測定する。 ・麻痺がある場合は健常側で測定する。 ・見守りながら、不十分な点をサポートする。 ・見守りながら、不十分な点をサポートする。 ・マンシエットの下縁が肘関節の2cm上に位置し、指が2本程度入るか確認する。
3. 後片づけ	①使用した物品を片づける。	3・チェックリストに沿って、できた所と次回 の目標をフィードバックする。

車椅子に関する講義・実習項目

到達目標	学内		臨地実習	
	講義	基礎実習	実習項目	到達の目安
①車椅子の各部名称を述べることができる。				
②車椅子の適応を述べることができる。				
③車椅子使用前の点検を実施することができる。				
④車椅子を操作する前の注意・確認事項を述べることができる。				
⑤対象者の姿勢保持の方法について実施することができる。				
⑥スロープの上り下りの際の注意事項を述べることができる。				
⑦エレベーターの乗り降りの際の注意事項を述べることができる。				
⑧キャスター（前輪）の浮かせ方を実施することができる。				
⑨段差の昇降の方法を実施することができる。				
⑩溝の越え方について実施することができる。				
⑪ベッドから車椅子への移乗時の留意点を述べることができる。				
⑫移乗・移送時の患者の状況に応じた危険ポイントを述べることができる。				
⑬対象者にあつた適切な声かけができる。				
⑭対象者を安全に車椅子へ移乗することができる。				
⑮対象者を安全に車椅子で移送することができる。				
⑯対象者の状況に応じた車椅子、他の物品の準備ができる。				
⑰移乗前後の患者の観察項目を述べることができる。				

【到達の目安】 I ひとりでできる II 指導の下でできる

【自己評価】

【実習担当者からの評価】

車椅子による移送

【到達目標】 安全・安楽に配慮しながら、車椅子に移乗し、目的の場所に移送できる。

【使用物品】 車椅子、ブランケット、室内履き（スリッパ）、クッションなど

手 順	手 順	留 意 点
1. 準備	①車椅子を準備する。 ＊タイヤの空気・ブレーキ・フットレストなどの確認。 ＊必要に応じてブランケット、室内履き、クッションなど準備	1 ・必要に応じて実習生の到達度を確認する。 ・対象者の状況を確認し、移送の留意点を伝える。
2. 実施	①対象者に挨拶し、車椅子への移乗と行き先を説明をする。 ②対象者の観察 必要に応じてバイタルサインを確認する。 ③対象者の身支度を整える。 ④車椅子をベッドに対して、20～30度の角度で置く。 ⑤対象者が端座位になったときに足底が床につくようにベッドの高さを調節する。 ⑥対象者を端座位にする。 ＊室内履きなどを履かせ、足底を床につける。 ＊めまいや気分不快の有無を確認する。 ⑦対象者に対し、立ちあがり、車椅子に座ることを説明する。 ⑧対象者と向かい合って立ち、両腕を肩につかまらせる。 ＊対象者の両足を20cmくらい開かせる。 ⑨対象者にできるだけ近づき、自分の足を対象者の足の間にに入れる。 ＊対象者の腰を自分の腰に引きつけるようにし、両腕を患者の背部で組む。 ⑩対象者の上体をやや前屈させ、腰を下げて後ろ足に重心がかかるようにする。 ＊息を合わせて対象者を立たせる。 ⑪回転しながら、車椅子の位置を確認し、ゆっ	2 ・見守りながら、不十分な点をサポートする。 ・麻痺がある場合は健側に置く。 ・見守りながら、不十分な点をサポートする。

<p>3. 後片づけ</p>	<p>くりと腰を下ろす。</p> <p>⑫座位の位置を整える。</p> <p>⑬フットレストに足を乗せる。</p> <p>⑭対象者の状態を確認する。 *必要に応じてクッションなどで対象者の姿勢を整える。 *ブランケットなどを掛ける。 ベッドはオープンベットに整える。</p> <p>⑮移送する。 *車椅子を動かすことを告げる。 *ブレーキをはずし、ゆっくりと車椅子を押す。 *時々声をかける。</p> <p>⑯移送後、観察・確認をする。 *対象者の一般状態、バイタルサインなど。</p> <p>⑰移送後、車椅子からベッドへ戻る場合、⑦～⑯の手順で移乗する。</p> <p>⑱使用した物品を片づける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安楽な姿勢か確認する。 ・移乗後の観察と確認をする。 ・移送時の車椅子操作の原則を確認する。 ・エレベーター、段差、坂に注意する。 <p>3・チェックリストに沿って、できた所と次回 の目標をフィードバックする。</p>
----------------	--	---

食事介助に関する講義・実習項目

到達目標	学内		臨地実習	
	講義	基礎実習	実習項目	到達の目安
①食事介助の目的について述べるができる。				
②食事介助の留意点について述べるができる。				
③食事前の覚醒が確認できる。				
④食事前に排泄、手洗いを実施することができる。				
⑤対象者の安全な食事姿勢を確保することができる。				
⑥食事前の準備を実施することができる。(配膳、食事用エプロンなど)				
⑦対象者と同じ目の高さで介助を実施することができる。				
⑧食事の内容を説明しながら介助を実施することができる。				
⑨嚥下を確認しながら介助を実施することができる。				
⑩食後の留意点について述べるができる。(30分程度体を起しておく)				

【到達の目安】 I ひとりでできる II 指導の下でできる

【自己評価】
【実習担当者からの評価】

口腔清掃に関する講義・実習項目

到達目標	学内		臨地実習	
	講義	基礎 実習	実習 項目	到達の 目安
①口腔清掃の目的を述べることができる。				
②BDR 指標を説明できる。				
③補助的清掃用具の種類と特徴、適応を説明できる。				
④各種補助的清掃用具を操作できる。				
⑤口腔清掃時のリスクを考え、体位を整えることができる。				
⑥口腔内状況を把握することができる。				
⑦口腔内状況に応じた口腔清掃用具を選択できる。				
⑧粘膜面の清掃を行える。				
⑨舌の清掃を行える。				
⑩含嗽の方法を指導できる。				
⑪口腔内状況に応じた清掃が実施できる。				
⑫義歯の清掃を行える。				
⑬保湿剤の使用法を説明できる。				
⑭口腔内の状況に応じて、保湿剤を使用できる。				

【到達の目安】 I ひとりでできる II 指導の下でできる

【自己評価】

【実習担当者からの評価】

口腔清掃の実施

【到達目標】 安全・安楽に配慮しながら、口腔清掃を行う。

【使用物品】 歯ブラシ、コップ×2（含嗽用、歯ブラシ水洗用）、ガーグルベースン、タオル、スポンジブラシ、粘膜ブラシ、義歯用ブラシ、保湿剤、ティッシュ

手 順	手 順	留 意 点
1. 準備	<ul style="list-style-type: none"> ①対象者に説明する。 ②口腔内状況を把握する。 ③必要物品を準備する。 	<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、実習生の学習の到達度を確認する。
2. 実施	<ul style="list-style-type: none"> ①対象者の体位確保を行う。 ②衣服に水が流れないようにタオルで首周りを覆う。 ③義歯のある場合は取り外す。 ④コップまたは吸い飲みで水を口に含ませ含嗽させる。 *含嗽ができない場合はスポンジブラシまたはガーゼで口腔内を軽く湿らせ、口腔内全体の大まかな汚れを除去する。 *必要な場合は保湿剤を用いる。 ⑤歯ブラシで残存歯をブラッシングする。 ⑥含嗽する。（またはスポンジブラシで清拭） ⑦舌ブラシやスポンジブラシで舌を清拭する。 ⑧スポンジブラシまたは粘膜ブラシで粘膜を清拭する。 ⑨義歯用ブラシを用いで義歯の清掃を行う。 ⑩義歯の装着を行う。 ⑪口腔の周りを拭きタオルをはずす。 ⑫体位を元に戻す。 ⑬清掃終了後の対象者の状況を確認する。 	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見守りながら、不十分な点をサポートする。 ・仰臥位で行う場合は首を横に向ける。 （麻痺がある場合は健側を下にする） ・ガーグルベースンはオトガイ部の下部に置く。 ・口蓋、頬粘膜、舌に付着物がある場合はゆっくりふやかしながらはがす。 ・汚れたら適宜水洗用コップの中ですすぐ。 ・流水下で行う。
3. 後片づけ	<ul style="list-style-type: none"> ①使用した物品を片づけ、清潔に保管する。 	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェックリストに沿って、できた所と次回 の目標をフィードバックする。

領域別 用語

■在宅

あ	アドボカシー	[Advocacy]	権利擁護。自分の権利を十分に主張することができない人に対して、社会的な不利を受けることがないように代弁したり擁護したりすること。
い	いしょく	[異食]	ゴミ、排泄物、紙など食物ではないものを食べてしまう行動。
え	エイチエムブイ	[HMV]	在宅人工呼吸療法 (home mechanical ventilation)
	エイチピーエヌ	[HPN]	在宅静脈栄養 (home parenteral nutrition) 自宅で行う高カロリー輸液療法。人工腸管システムともいう。
	エフアイエム	[FIM]	機能的自立度評価法 (functional independence measure)
か	かいごふくしし	[介護福祉士]	身体上・精神上の障害により日常生活を営むのに支障がある人に対して、入浴、排泄、食事・介護を行い、本人や介護者に対して介護に関する指導を業とするもの。
	かいごほけんほう	[介護保険法]	1999年に成立。2000年4月施行された、介護を必要とする高齢者に対するサービスを提供できるように定められた法律。
き	きのうてきじりつど ひょうかひょう	[機能的自立度評価表]	移動や身の回りの動作、コミュニケーションや認知能力などを加えた、18項目からなる日常生活動作を評価する指標。
	キーパーソン	[Key Person]	その患者を支えることができ、その患者にとって親密な関係をもつ人。親子、配偶者などがキーパーソンとなることが多い。
	きょたくさーびす	[居宅サービス]	介護保険によるサービスのひとつ。介護保険には居宅サービスと施設サービスがあり、介護を認定されたあと利用者がサービスを選択して受ける仕組みとなっている。
け	ケアマネージャー	[Care Manager]	介護支援専門員。専門知識や技術を有する者であり、都道府県の試験に合格し、研修を受けた後、資格を取得できる。要介護認定の調査と居宅サービス計画の立案実施を行う。
	ケースワーカー	[Case Worker]	福祉事務所で相談援助を行う職員の通称。

こ	こうきこうれいしゃ	〔後期高齢者〕	高齢者の分類で、75歳以上を後期高齢者という。
	ゴールドプラン21	〔Gold plan21〕	厚生労働省が提唱する高齢者保健福祉施策のひとつ。
さ	ざいたくかんご	〔在宅看護〕	慢性疾患、終末期や難病など在宅療養が必要な患者への訪問看護のこと。
	ざいたくケアチーム	〔在宅ケアチーム〕	患者や家族へ在宅のホームヘルプサービスを提供するために、看護師、ヘルパー、ケアマネージャー、医師がチームを組んで行うこと。
し	しゃかいふくしし	〔社会福祉士〕	身体上、精神上の障害、または環境上の理由により、日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言・指導・援助を行うことを業とするもの。
	ショートステイ		在宅で介護をしている家族が一時的に介護が困難な時に、介護者の負担を減らすために要介護者を施設に一時的に預かるサービス。
つ	つうしょサービス	〔通所サービス〕	介護保険法では通所介護という。デイサービス（日帰り介護）とデイケア（通所リハビリテーション）がある。
て	デザイン	〔DESIGN〕	デザインの分類。褥瘡の評価法のひとつ。D（深さ）、E（浸出液の量）、S（大きさ）、I（感染の有無）、G（肉芽組織の色）、N（壊死組織の有無）、とP（ポケットの大きさ）を加えたもので褥瘡を評価する。
	デスエデュケーション	〔death education〕	死の準備教育。健全な死生観を与えると共に、死を知ること命の重みを理解し、生きる喜びと感謝の心を育むことを目的とした教育。
ね	ねたきりど	〔寝たきり度〕	常に臥床またはこれに近い状態で、日常的に介護が必要な状態。寝たきりの程度を判定する時に使う基準や、障害者、高齢者の日常生活自立度を基にする。
ひ	ピーエイチエヌ	〔PHM〕	保健師（public health nurse）の略。公衆衛生の看護師。
ほ	ほうもんかんごステーション	〔訪問介護ステーション〕	医療、社会の変化に伴い、長期に在宅療養が可能になるよう在宅でのケアシステム

	ほうもんサービス	[訪問サービス]	として設置された施設。 介護保険制度によるサービスのひとつ。訪問看護サービス、ホームヘルプサービス訪問入浴介護がある。
よ	ようかいごと	[要介護度]	市町村の窓口や福祉事務所に、介護保険の申請を行った時に行われる調査のひとつ。 ※ホームヘルパー ※ホームヘルプサービス

■高齢者

あ	アルツハイマーがた にんちしょう	[アルツハイマー型認知症]	加齢に伴う脳の一次性委縮性病変により発症する認知症。物忘れからはじまり、徐々に日常の生活に支障が出て、昼夜逆転などの問題行動が見られる。 SDAT(senile dementia with Alzheimer's type) ATSD (アルツハイマー型老年期認知症)
え	エムアイディ エンパワーメント	[MID] [empowerment]	多発梗塞性痴呆。 権限を付与すること。持っている力を引き出して、自分に起こる事柄に対するコントロールができるようになること。
か	かいごほけんせいど	[介護保険制度]	超高齢社会を見通して導入された保健制度 ⇒在宅の項参照
け	けんとうしきしょうがい	[見当識障害]	日時や場所、人物、周囲の状況について見当づけができない状態のこと。
こ	こうそく	[拘束]	行動・自由を制限すること。患者自身の錯乱や見当識障害などにより、患者を自由にしていることが危険であると判断した場合においてのみ、患者の自由を制限し、ベッドや車いすなどに固定すること。
	こしゆく	[固縮]	パーキンソン病の症状のひとつ。四肢や躯幹の関節に他動的屈伸運動を加えた時、筋緊張の亢進が見られる症状。筋固縮、筋強剛ともいう。
	こつそしょうしょう	[骨粗しょう症]	骨中のカルシウム、タンパク質、リンの量が減少することにより、骨量・骨密度が減少し、徐々に骨がもろくなる疾患。

さ	さくわ	[作話]	作り話のこと。失った記憶の部分を埋めるために無意識に作り話をする事。
た	たいこせいへんか	[退行性変化]	細胞の代謝に障害が起こり、その機能が障害される結果、細胞自体の存在が危なくなるような過程。
て	デイケア	[day care]	昼間治療、日帰り療養
と	とうしょく	[盗食]	他人の食事やおやつを食べてしまう行為。
	どつきよ	[独居]	1人暮らし
に	にんちしょう	[認知症]	脳の障害により、知能、記憶、認識力、見当識、判断力などの精神機能が障害され、日常生活や社会生活に支障をきたしている状態をいう。
の	のうけっかんせい にんちしょう	[脳血管性認知症]	認知症のひとつ。脳梗塞や脳出血など、脳の血管に異常が起きた結果、認知症になったもの。
は	はいかい	[徘徊]	客観的にみると目的や動機を持たずに、歩きまわっているように見えること。
	はいようしょうこうぐん	[廃用症候群]	安静や臥床などにより、身体を長期間動かさないことで生じる、各臓器の退行性変化や精神的機能低下により引き起こされる一連の症状。寝たきり患者の筋肉拘縮など。
	はせがわしきかんい ちのうひょうか	[長谷川式簡易知能評価スケール]	認知症の有無や程度を簡易に評価 スケールできるテスト。20点以下は認知機能の低下があると評価される。
ひ	ピックびょう	[ピック病]	若年性認知症のひとつ。神経細胞が脱落することによって起こり、近辺にピック小体という異常物質ができるために起こる疾患。主に大脳の前頭葉や側頭葉が委縮し、人格変化や情緒障害などが初発症状としてみられる。
ま	まだらにんちしょう	[まだら認知症]	脳血管性認知症の症状のひとつ。脳機能が全体的に低下するのではなく、低下した機能としていない機能が混在する状態。
よ	よくせい	[抑制]	治療や看護の必要上、患者をベッドや車いすに拘束すること。

り	リビングウィル	[living will]	自分が死ぬ時にどのような医療を施してほしいのかを、本人の判断能力があるうちに文書として残したもの。生命維持装置装着の有無（拒否）や、苦痛除去治療をどうするかという時に用いられることが多い。
ろ	ろうけん	[老人保健施設]	急性期を脱し、病院を退院した高齢者に対し、家庭に帰れるまでのケアを継続して行う施設。医学的管理が必要な介護、看護、リハビリテーション、デイケア、ショートステイなどのサービスを行う。

■疾患名

あ	アイシーエイチ	[ICH]	頭蓋内出血
	アイディディエム	[IDDM]	1型糖尿病
	アデノカルチノーマ	[adenocarcinoma]	腺癌。内部組織にある分泌腺組織の細胞から発生する悪性新生物。
	アデノーマ	[adenoma]	腺腫。腺細胞が腫瘍性に増殖する疾患。
	アテレクタシス	[atelectasis]	無気肺。肺の一部や全体に空気が入らないことで、肺がつぶれた状態になり呼吸機能が障害される。
	アテローム	[atheroma]	粉瘤。粥腫。皮膚の下に袋状の構造物ができ、本来なら皮膚から剥げ落ちる角質と皮脂が袋の中に貯留してしまう腫瘍の総称。
	アトピー	[atopy]	ヒト特有の遺伝性過敏症で、その体質の人の皮膚に刺激が加わることにより生じる、慢性皮膚炎。
	アポプレキシー	[apoplexie : 独]	脳卒中。脳の血管の閉塞や出血などで、その先の脳神経細胞に栄養や酸素が届かなくなり、壊死してしまう脳血管障害の総称。
	アールエー	[RA]	慢性関節リウマチ
	アールディエス	[RDS]	呼吸窮迫症候群
い	インファークション	[infarction]	梗塞。詰まること。
え	エーアールエフ	[ARF]	①急性呼吸不全。 ②急性腎不全。
	エイズ	[AIDS]	後天性免疫不全症候群
	エーエーエー	[AAA]	腹部大動脈瘤
	エーエムエル	[AML]	急性骨髄性白血病
	エスエーアールエス	[SARS]	重症急性呼吸器症候群。サーズ、サーズという。

	エスアーエス	[SAS]	睡眠時無呼吸症候群
	エスエスエス	[SSS]	洞結節不全症候群. 不整脈のひとつ.
	エスシーシー	[SCC]	扁平上皮がん
	エスティディ	[STD]	性行為感染症
	エヌアイティティエム	[NIDDM]	2型糖尿病 (インスリン非依存型糖尿病)
	エーブイブロック	[AV block]	房室ブロック (atrioventricular block) の略
	エムアイ	[MI]	心筋梗塞
	エムエム	[MM]	多発性骨髄腫
	エムオーエフ	[MOF]	多臓器不全
	エムワイディ	[MyD]	筋緊張性ジストロフィー
	エルオーエス	[LOS]	低心拍出量症候群
お	オステオミエリティス	[osteomyelitis]	骨髄炎. 可能性骨髄炎
	オーディ	[OD]	起立性調節障害
し	シーアイ	[CI]	脳梗塞
	シーアールエフ	[CRF]	慢性腎不全
	シーエイチエフ	[CHF]	うっ血性心不全
	シーエルエル	[CLL]	慢性リンパ球性白血病
	ジーユー	[GU]	胃潰瘍
た	たいせん	[苔蘚]	ほぼ同じ大きさの小丘疹が多数集積し、あ るいは散在し、その状態が長く続く皮膚疾 患.
ひ	ピーエーシー	[PAC]	心房性期外収縮. 不整脈のひとつ.
へ	ヘパトーマ	[hepatoma]	肝細胞がん
	ヘモロイド	[hemorrhoid]	痔. 痔疾.
ま	マリグナントリンホーマ	[malignant lymphoma]	悪性リンパ腫
む	ムンプス	[mumps]	流行性耳下腺炎. おたふくかぜ.
め	メニエルしびょう	[メニエル氏病]	眩暈発作を主な症状とした内耳疾患.

■略語 (カルテ・記録など)

R	呼吸 (respiration)
アイテル	膿. うみ
IVH	中心静脈高カロリー輸液
アナフィラキシー	全身性の急性アレルギー反応.
アナフィラキシーショック	I型アレルギー反応の一種. 抗原抗体反応による即時型反応.
アネムネーゼ	病歴. アネムネともいう.
アネミア	貧血
アブセス	腫瘍

アブニア	無呼吸
ECG	心電図
HR	心拍数 (heart rate)
Hr	ハルン[harn : 独] 尿. 尿量
SaO ² (Sp O ²)	動脈血酸素飽和度
エデマ	浮腫. むくみ
NR	栄養情報担当者
NST	栄養サポートチーム
NC	変化なし (No—change)
FH	家族歴
かんとん	嵌頓. 何かにはまり込んで抜けなくなった状態. ヘルニア.
かんにゅう	嵌入. はめ込むこと.
きょうさく	狭窄. 狭いこと.
けっせつ	結節. 皮膚病変のひとつ.
けっせん	血栓. 血管内で生成された血液のかたまり.
コアグラージェ	血液が凝固したもの. コアグラともいう.
こうはん	紅斑. 皮膚病変のひとつ.
コート	cot/kot 便のこと.
しゅりゅう	腫瘤. しこりや腫れ.
しょうたい	消退. 消えてなくなること.
しんしゅう	侵襲. 生体内の恒常性を乱す行為全般.
しんしゅつ	滲出. 炎症が起こった時, 血管から組織内へ血液成分が出てくる状態.
しんじゅん	浸潤. 組織に炎症が起こった時, 白血球がその組織内に入っていくことや, 病巣が周囲の組織を徐々に侵しながら拡大していく状態.
すいほう	水泡. 水ぶくれ.
せんこう	穿孔. 臓器の一部の病的変化や外傷によって穴が開くこと.
せんし	穿刺. 注射針など尖ったものを身体に刺すこと.
せんそく	尖足. 足首が底側に屈曲する変形.
そうは	搔爬. 内容物を掻きだすこと.
そうよう	搔痒. かゆみ.
Wt	体重
TP	治療計画
TPR	体温
TPN	完全静脈栄養
ネクローシス	壊死.

のうほう	膿疱. 水分を含んだ皮膚が盛り上がり, 内部に膿が貯留しているもの. 水泡の内部が膿であるもの.
BP	血圧 (blood pressure)
ムンテラ	医療者 (主に医者) が家族へ病状や診断、治療、今後のことなどの説明をすること. mundtherapie/MT

教育養成委員会

福田 弘美	委員長
石川奈保美	委員
上浦 環	委員
関口 洋子	理事
久保山裕子	副会長